



すばらしいプレーをしたチームが勝つのではない

1 学期末テストが終了し、暑い・熱い夏がやってきます。陸上部はすでに地区総体を終えています、いよいよ多くの部活動が2年半の集大成である地区夏季総体を迎えます。

先週の金曜日から部活動が再開されました。各部で目標は違うと思いますが、それぞれの目標が達成できるよう、最後の仕上げに取り組んでください。特に3年生は、悔いのないプレーをして、良い思い出を残してほしいと思います。これまでの経験から、みなさんに3つのアドバイスを贈ります。全力を出し切って、燃え尽きてください。がんばれ、詫中生！

1 けがをしないこと

私は、中学校の夏季総体前日の練習中にけがをしてしまい、総体に出場できませんでした。投球練習をしていたピッチャーのボールが大きく上にそれて、「危ない！」という声に振り返った私の左目を直撃しました。痛みよりも、白く濁って左目がまったく見えなくなったことがショックでした。試合の日の朝、顧問の先生やチームメイトに隠して試合に出ようと決めて、「大丈夫です」と嘘を言って練習を始めました。しかし、距離感がなくなっていて、キャッチボールの時にうまくボールを捕れず、先生に呼ばれて、病院へ直行するように命じられました。私の代わりに出場した2年生は、1・2回戦は無難に乗り切ったのですが、県大会のかかった試合で決勝点につながるエラーをしてしまいました。試合終了後、その2年生はずっと泣きっぱなしで顔をあげませんでした。

明らかに私の不注意でした。投球を受けているキャッチャーの後ろに立っていたことが悔やまれてなりません。避けることのできたけがでした。40年経った今でも、けがをした目から流れる涙の痛みと、総体前日に大きなけがをしてしまった悔しさは、はっきりと覚えています。

2 「すばらしいプレーをしたチームが勝つのではない。すべきプレーをしたチームが勝つのだ」ということ

これは、メジャーリーグで活躍するイチローの言葉です。サッカーの中山雅史も、「当たり前のことを当たり前に行うことが、実は一番のスーパープレーだと思っています」と語っています。また、陸上のフローレンス・ジョイナーは、優勝できた理由を質問されて、「試合前にやらなくちゃいけないことをきちんとやっただけです」と答えました。

誰でも試合で勝ちたいと思います。最高の記録を残したいと思います。そのためには、今までにしたことのないようなすごいプレーをしようとするのではなく、むしろ、勝つために自分がすべきことをきちんとすることに意識を集中しましょう。

そしてこれがポイントですが、その「自分のすべきこと」を文字にして、いつも目につくところに貼り付けておくことが大切です。よく、帽子の裏やラケットに「努力」とか「根性」などと書きます。これも大事ですが、もっと具体的で細かなチェックポイントを書くのです。例えば「ボールから絶対に目を離さない」とか「左肩を開かない」「一球ごとに声をかける」など。そうすれば、プレーの最中でも目に入るため、試合中に修正することができます。

3 勝ってほめられない人・チームにならないこと

勝っても非難される人・チームがあります。試合会場のあちこちで、「あんなチームに勝たせたらいかんわ」「あんなチームが勝ったら、まじめにしよる子はかわいそうやな」「優勝したって何の意味もないわ」などとささやかれています。何とも悲しいことです。

一方、負けても称賛される人・チームもあります。その原因のほとんどが、マナー（態度）です。試合中はもちろん、試合の待ち時間や休憩時間も含めて、多くの人の目で見られ評価されています。試合に勝つ、そしてその勝利をほめられる人・チームでありたいものです。